

令和5年度 富山国際大学付属高校学校評価

富山国際大学付属高等学校

(1) 確かな学力向上に向けた教員の指導力の向上

具体的目標	① 生徒に興味・関心を持たせ学習意欲を刺激し学力を向上させるよう、教材と授業の工夫を行う。 ② 新学習指導要領にそった新たな教育を展開できるよう、教材の精選・シラバスの作成と進度の確認・授業の工夫・試験問題の検討などを行う。 ③ 校内外における研修を通して授業力を高める。 ④ ICT教育を推進し、「21世紀型学力」の涵養を図る。	
本年度の取組	① 生徒が主体的に取り組める授業の計画・実施。 ② SDGsの観点をシラバスに取り入れ、それにもとづいた授業、授業内容の打合せ、テスト問題や課題の検討がなされた。 ③ 「大学入学共通テスト」に向けた指導研究を各教科で実施。 ④ 全教科でiPadを使った授業の試みが多くなされた。	
成果	・ 新課程の求める、教えた（input）知識を言語活動（output）で定着させる授業方法が多く試みられ、「21世紀型学力」が涵養されつつある。 ・ iPad（第2の言語）の活用で、教員の「新しい教育観」に対する意識が徐々に変化し、時代にあった教育方法を研究する意識が芽生えつつある。	
反省と課題	・ 積極的に新規の教育法に取り組む教員も増えてきたが、まだその機運が全体に広がっているとまではいえない。 ・ 先進校の取り組みを積極的に研究し、学校全体で学力向上に向けた取り組みを継続していく必要がある。	
評価の観点と尺度	① 生徒が主体的に取り組める授業計画 ② 教員の教科指導力 ③ 共通テストに向けた対策 ④ ICTを活用した「21世紀型学力」の涵養 （大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1）	
観点別自己評価と総合評価	総合評価 3.3 ① 3.3 観点別評価によって、知識、思考力、主体性のバランスのとれた指導を目指した。 ② 3.2 教員研修などの機会を設けて新たな効果的指導法の研鑽に努めた。 ③ 2.8 ドライブでデータを生徒と共有し、受験対策の充実を図った。 ④ 3.7 ICTの利用を促進しつつ、効果的な使用法の定着を促した。	
評価委員会評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	① 生徒が主体的に取り組める授業計画 ② 教員の教科指導力 ③ 共通テストに向けた対策 ④ ICTを活用した「21世紀型学力」の涵養 （大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1）	① 3.1 ② 3.1 ③ 2.9 ④ 3.2

(2) 正しい職業観と明確な進路意識の育成

具体的目標	① 保護者・卒業生や上級学校から講師を招き、進路意識を育む。 ② 様々な分野から講師をまねき「国際理解講座」を開催し、豊かな世界観・社会観を育成する。 ③ 自らの進路を主体的に切り開く能力を涵養できるよう、新たなプログラムを研究開発する。 ④ 3年間を通した探究活動を充実させる。	
本年度の取り組み	① キャリア教育の一環として「進路探究の日」「小論文プログラム」「読書活動」「学校説明会」「上級学校見学会」「体験入学」「職場見学会」「高大連携授業」などを実施。 ② 各界から講師を招き、（令和5年度は）10回の国際理解講座を実施。 ③ 学校行事と学習活動を結び付ける新たなプログラムを研究。 ④ 探究活動と入試結果を結びつける体制の研究。	
成果	・「21世紀型学力」を伸ばす様々な教育機会を提供した。 ・学校全体で進路指導にあたり、成果を出すことができた。 ・探究活動と入試結果を結びつけることができた。	
反省と課題	・総合型選抜や学校推薦型選抜入試を受験する生徒の割合が高いため、その指導に対応できるよう、より一層の指導力の向上が必要である。 ・充実した内容の「国際理解講座」が展開されているが、その成果を生徒全体に広げる工夫が必要である。 ・「21世紀型学力」を養うための3年間を見据えた早期の進路指導の計画・立案についてはまだ開発途上である。	
評価の観点と尺度	① 進路関係行事の内容 ② 国際理解講座の内容 ③ 行事とカリキュラムの連携の進捗 ④ 進学実績 （大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1）	
観点別自己評価と総合評価	総合評価 3.2 ① 3.4 年内入試を見据えた3年間の指導シラバスを策定した。 ② 3.4 多様な講師によるさまざまな講演会を実施した。 ③ 2.8 生徒の成長への相乗効果を意識し、授業と行事との連携を図った。 ④ 3.1 自己実現に向け、計画的に実績を積めるようサポートに努めた。	
評価委員会評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	① 進路関係行事の内容 ② 国際理解講座の内容 ③ 行事とカリキュラムの連携の進捗 ④ 進学実績 （大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1）	① 3.3 ② 3.3 ③ 3.1 ④ 3.2

(3) 心豊かな人間性の育成

具体的目標	① 地球市民として円滑な人間関係を築き、生きる力を涵養する。 ② 社会の一員としての規範意識の向上を図る。 ③ 学習活動、学校行事、部活動に主体的に取り組める生徒を育てる。 ④ 国際性を重視した教育を行う。	
本年度の取組内容	① SDGs 説明パネル（17 ゴール 169 ターゲット）をクラス・廊下に掲示した。 ② 生徒会・ユネスコ部が中心となって、SDGs マインドを全校に広める工夫をした。 ③ 生徒と学級委員が主体的に学校行事に取り組む工夫をしている。さらに取組んだ内容を全校生徒に発信し、「見える化」している。 ④ 国際交流ではアメリカ・韓国研修を再開し、外務省所管の“JENESY2023”に15名の生徒が参加した。	
成 果	・ SDGs の理念についての理解が進んでいる。 ・ 社会の一員としての生徒の規範意識が高まりつつある。 ・ 自ら設定した研究テーマに対して、主体的に取り組む姿勢が養われている。 ・ 違いをそのまま受け入れるという素晴らしい能力が育ちつつある。	
反省と課題	・ 各種行事・活動を生徒主導で取り組めるまでには至っていない。 ・ 規範意識を高めることに主体をおいた指導を進めていく必要がある。 ・ 国際化・多様化の中で、教員の意識が追いつかない事例がある。	
評価の観点と尺度	① 他を受けいれようとする寛容性の涵養 ② 社会の一員としての規範意識の醸成 ③ 生徒の自主性と行事の運営度 ④ 国際交流の充実 （大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1）	
観点別自己評価と総合評価	総合評価 3.2 ① 3.0 国籍を問わず、地球市民として各々を尊重する態度を育てた。 ② 2.6 集団の一員としての自覚を持たせ、協調性の大切さを訴えた。 ③ 3.1 生徒が主体となる学校づくりをすすめるためのサポートを心がけた。 ④ 3.9 姉妹校との相互交流をはじめとする多くの国際交流を実施した。	
評価委員会評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	① 他を受け入れようとする寛容性の涵養 ② 社会の一員としての規範意識の醸成 ③ 生徒の自主性と行事の運営度 ④ 国際交流の充実 （大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1）	① 3.2 ② 3.1 ③ 3.1 ④ 3.4

(4) 教育環境の充実

具体的目標	① 体育施設のさらなる充実を図る。 ② ICT 教育推進のための情報環境の増強を図る。 ③ 自学自習用の教室を整備し、面接用の個室を増やす。 ④ 文化芸術を通して、豊かな感性や想像力を養う。 ⑤ 「21 世紀型学力」の養成を目指し、“新聞”を活用する。	
本年度の 取組内容	① 体育館の換気扇・自動手洗い場の整備・維持。 ② テニスコート、ピロティの人工芝の整備・維持。 ③ 各教室のプロジェクターの交換・改修。 ④ 絵画など芸術作品の追加と、やすらぎスペースの整備。 ⑤ 「新聞大学への入口」コーナーと「新聞大学への入口」コーナー ANNEX を設置。 北日本新聞、富山新聞、読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞、Japan News…	
成果	① 体育館の換気扇・自動手洗い場により、熱中症への対策ができた。 ② テニスコート、ピロティの人工芝により運動面での安全が確保できた。 ③ プロジェクターとホワイトボードを有効活用することで授業が効率化できた。 ④ 校内展示の芸術作品を増やすことで、文化を楽しむ感性が養われた。 ⑤ 新聞を探究活動に活用する姿勢が高まるとともに、新聞に親しむ生徒も徐々に増えつつある。	
反省と課題	・ 部活動の利用状況に比して活動場所の確保が十分とはいえない。 ・ 最先端の ICT 環境構築のため、常に設備を更新し続けていく必要がある。 ・ 面談室の数が限られている中、より効果的な指導を心がける必要がある。 ・ 教員が新聞をより積極的に指導に活用しようという姿勢が求められる。	
評価の観点 と尺度	① 生徒数に対応した体育施設の整備 ② ICT 環境の整備 ③ 学習室・面談室の有効利用・整備 ④ 芸術作品追加とやすらぎスペースの整備 ⑤ 年間購読している新聞の有効活用 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1)	
観点別 自己評価と 総合評価	総合評価 3.2 ① 2.6 生徒数に対して手狭なため、短大体育館を借りて授業している。 ② 3.7 十分な環境が整っているが、常に機器の更新が必要となる。 ③ 3.1 教室数は慢性的に不足しているが、なんとかやりくりしている。 ④ 3.4 生徒の創造性や発想力を養う作品が適所に展示されている。 ⑤ 3.4 ネットだけでは不足する情報に手軽に触れる機会が増えた。	
評価委員会 評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	① 生徒数に対応した体育施設の整備 ② ICT 環境の整備 ③ 学習室・面談室の有効利用・整備 ④ 芸術作品追加とやすらぎスペースの整備 ⑤ 年間購読している新聞の有効活用 (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1)	① 3.0 ② 3.2 ③ 3.3 ④ 3.1 ⑤ 3.2